

令和 4 年 3 月 25 日

学校関係者評価委員会 議事録

学校法人 国際共立学園
学校関係者評価委員会
委員長 小林美貴

会議名	学校関係者評価委員会 定例会議
開催日時	令和 4 年 3 月 17 日 18:00～19:00 (1 時間)
場所	新館 8 階 ホール
出席者	【委員】 小林 美貴 (教育機関)、阿久津 幸司 (教育機関)、門脇 一浩 (教育機関)、 富岡 啓夫 (業界)、立花 正雄 (業界・卒業生)、間仁田 厚 (業界・保護者)、 堀口 真理(業界) 【教職員】 和田 美義、工藤 佑輝、古荘 浩司、境田 三友紀、星野 丈二、高橋 淳実、 嶺 雄太、鈴木 徹、原田 昭男(事務局)
配布資料	(1) 令和 2 年度自己点検評価課題【自己評価報告書抜粋】：事前配布 (2) 課題のまとめと対策の取り組み状況 (3) 資格・検定合格率 (4) 過去 3 年の入学者属性分析 (5) 過去 2 年の 1 年修了時の成績分布 (6) 学園報「ひぐらし」
令和 2 年度自己評価報告書において課題として上げていた事項について、学校による本年度の取り組み状況の総括に対する委員の助言・提言及び次年度に向けた改善事項の指摘	
議題 1 資格・免許 取得状況	【説明者】 事務局 (配布資料 3 をもとに説明) ・ 理容師・美容師国家試験については令和 2 年度より向上、CIDESCO 国際ディプロマについては 100%合格維持。しかし、その他の資格検定については取得率が下がっているものもある。担当者は、学生の動機づけの失敗をその原因としている。 【質問・意見】 立花委員 ・ 動機づけの失敗、つまり資格検定の目的、目標を学生に適切に伝えられなかったというのは恐らくそうなんだろう。ただ、それと同等以上に重要なことは講習・授業進行に工夫が必要ということだと思う。例えば色彩検定の授業は、私も知っているが、学生の興味を惹くことが巧みで、それが高い取得率に繋がっている。 検定対策に限らず、教職員は普段の授業構成・進行スキルもレベルアップする必要があると思う。

	【質問・意見】 堀口委員 ・ CIDESCO 検定結合合格率 100%維持というのは、まさに教員の教え方の工夫が結果に結びついたものであり、献身的に貢献されたものと思う。
議題 2 卒業生との 関係強化	【説明者】 工藤 佑輝（学園報「ひぐらし」について） ・ 以前は年 3 回ほど発行していたが、いつしか休刊していた。それを復刊させた訳だが、過去 3 回の発行・送付に対し、毎回 20, 30 件の住所変更の連絡があった。これにより卒業生名簿のクリーニングを行うことができ、卒業生への情報発信の強化に繋がるものとする。 【質問・意見】 阿久津委員 ・ 専門学校と高校の同窓会の最大の違いは、高校の場合、卒業生の進路が様々で統一性がないという点。また、卒後の人生に満足している人は自ずと高校との関係維持に関心が向くが、そうでない人は積極的にかかわろうとはしない。このように大きな違いはあるが、専門学校の場合も、まずは成功者との関係強化から始めることが効率的ではないか。 【質問・意見】 小林委員 ・ 自分の高校では本校卒業後 1, 2 年目の企業 OB による企業説明会を就職希望者に対して行っている。高校生にとっては入社後の生活が明確にイメージできるし、説明者の OB にとってもモチベーションアップにつながるというメリットがある。こうした関係が学校とサロンとの間で構築できれば、それが卒業生との関係強化にも繋がるものではないか。ただし、コロナ禍のあおりを受けて昨年は対面式の説明会ができず、冊子による説明に代えたが、時間制限のある説明会と違い、結果として全社網羅的に知ることができ、意外にも保護者には好評だった。このことから、次年度以降も対面式が取りやめとなるのではという懸念を抱いている。 【質問・意見】 門脇委員 ・ 以前在籍していた高校では年 1 回の文化祭がほぼ唯一の卒業生と関わる機会だった。日常的な関係といえば、卒業後に何らかの岐路に面した OB が学校に相談に来るということはある。そういうものとして高校はあるという実感を持っている。
議題 3 学生の質的 変化	【説明者】 高橋 淳実及び事務局（配布資料 4,5 をもとに説明） ・ 過去 3 年間の入学者の属性について （変わらないもの） 高校の成績、欠席日数、出身エリア （有意の変化が認められるもの） ① オンライン説明会の開催を契機とした地方出身者の増加と広域化 ② 出願者数の絶対的増加に伴い、指定校推薦・自己推薦(AO 式)による出願数が 2 年前と比較して約 2 倍となった。また、通信制高校出身者も微増している。

	この２点が「質的变化」の基盤を構成しているのではないかと考えられる。 ・１年修了時点の成績分布について 理容科以外の全学科は、成績下位 1/4 に占める学生数が顕著に減少している。つまり、理容科以外の学生の学力は向上している。 ・出願者の内訳が(特別)指定校推薦と自己推薦に２極分化したことで、教職員が感じている「質的变化」がさらに昂進することを学校は懸念している。 【質問・意見】 阿久津委員 ・今年、いろんな高校で講演活動を行ってきた。そこで感じたことは、学習成績のみで評価するのはなく、より深く学生と関わり、様々な側面から学生を評価する必要があるということ。 他の美容学校の情報も色々入ってくるが、成績下位者を切る捨てる学校も存在する。そうではなく、最後まで面倒を見ることがこの学校の立ち位置の確立、差別化になると思う。むしろチャンスととらえるべき。 このことを明確に、対外的にアピールするためには国家試験合格率 100%達成が必須である。 【質問・意見】 小林委員 ・二極格差は自分の学校にもある。自分もこのことは切実に感じている。 低学力者に共通する問題として、進路意識・目的意識が低いということがある。 そうした生徒たちにどのようにアプローチすべきなのか、どうすれば進路意識を持ってもらえるのか、明確な回答が見出しづらい。 【質問・意見】 門脇委員 ・低学力化の大きな要因の一つにコロナ禍があると思う。オンライン授業の一般化が、分からない学生をいわば放置する大きな要因になっているのではないと思う。 【質問・意見】 間仁田委員 ・この学校はよくやっているとは自分は思う。 一つ言えることとして、資格検定合格率の阻害要因の一つに学生・生徒の「うっかりミス」があると思う。この対策も大事ではないか。
議題４ パフォーマンス課題の適切な評価と学生の継続的理解の涵養	【説明者】 境田 三友紀 ・今年度の学園方針（満足度を高める教育活動）実行計画の一つであるルーブリック評価の推進について 「できた・できない」という単純な評価機軸ではなく、複合的な評価が必要な取り組みの評価規準としてルーブリック評価がある。 この具体例の一つとして、学外実習や学内の来客実習の評価基準を作成した。 今年度はコロナ禍のあおりで学外・学内実習ともにできなかったが、次年度の実習にはこの規準を活用していく。

議題 5 新 型 コ ロ ナ ウ イ ル ス 感 染 対 策	【説明者】 嶺 雄太 ・今年度作成した対策マニュアルに基づいて活動した。 学生・生徒の感染者ゼロとはいかなかった。発症者の多くは夏休みと2年生の成人式の前後に集中している。つまり友人・知人との会食中に感染しているということ。 ただ、感染治療あるいは濃厚接触による自宅待機による国家試験または CIDESCO 受験辞退となった者はなく、全員受験することができた。
議題 6 全般的討議	【質問・意見】 富岡委員 ・議題 3 の過去 3 年間の入学者の属性に関する説明資料に、入学予定者の業界理解度に差があるとの説明があるが、具体的にはどのようなことか 【説明者】 高橋 淳実 ・本校の体験入学等参加者を対象に行ったアンケートによれば、本校を含む学校見学の回数が本年度は例年より 1 回弱少ないという結果が出ている。それだけ美容に関する知識を得る機会が減る訳であり、これが、業界理解度が低いという仮説を立てた理由である。 【質問・意見】 富岡委員 ・資格検定合格率が昨年度比で低くなったものもあるという説明があったが、受かる者しか受験させない学校もある。 そういうことを考えれば、この学校はよくやっていると思う。 【質問・意見】 小林委員 ・自己推薦の口頭試問のエントリーシート提出日と口頭試問（面接）日について、学校の進路指導部にも日程を提示してもらえると学校としてもありがたい。善処をお願いする。
まとめ (小林委員長)	次回は令和 3 年度の自己点検結果の評価となる。 次回もよろしくお願いいたします
次回日程	令和 4 年 5 月 13 日(金) 18:00～